

第1学年 生活科 学習指導案

町田市立相原小学校

1年2組 29名

指導者 阿部瑞帆

1. 単元名 「いきものと なかよし」

2. 単元目標

身近な動物を探したり、飼ったりする活動を通して、それらの育つ場所、動きや変化の様子に関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることに気付くとともに、動物への親しみをもち、大切にしようとするができるようにする。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な動物を探したり、飼ったりする活動を通して、それらは生命をもっていることに気付いている。	身近な動物を探したり、飼ったりする活動を通して、それらの育つ場所、動きや変化の様子に関心をもって働きかけている。	身近な動物を探したり、飼ったりする活動を通して、動物への親しみをもち、大切にしようとしている。

4. 単元について（指導観）

(1)単元設定の理由（単元観）

本単元の学習は、学習指導要領では、以下のように位置付けられている。生活科の内容（7）動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

本単元は、動植物が盛んに活動している時期や場所を選んで行う必要がある。校内での活動もするが、校外の公園、野山、河原などでの活動も検討し、さまざまな生き物と触れ合える環境として、身近な相原中央公園を選んだ。相原中央公園は、本校から徒歩10分程度の距離にあり、開けたグラウンドや芝生の広場と雑木林があり、動植物がたくさん生息している。これまでも季節によってたくさんの昆虫を探すことができた。子供たちにとっても身近な公園であり、普段から遊んだり、スポーツをしたりしている公園である。保育園や幼稚園で遊びに来ることもあり、子供たちは、動植物がいる場所も知っている。子供たちが捕まえた動物を飼育する活動を通して、その動物の生育できる環境や条件などを話し合ったり、調べたりしながら、動物の変化や成長の様子に関心をもたせ、動植物には生命があることに気付かせ、親しみをもち大切にしようとする気持ちを育む。

(2)児童の実態（児童観）

児童たちは入学してから、学校探検や栽培活動などを通して、知的好奇心をかきたて、それぞれの活動において、科学的な思考と表現をする学習活動を行ってきた。これまでは教師が主導で学習を進めることが多かったが、導入段階でこれまでの生活体験を想起させたり、学習のまとめとして絵や言葉で表現したりする活動を行ってきた。また、入学してからスタートカリキュラムを経て、合科的に学習を進めてきていることを生かしつつ、それぞれの教科とのつながりを意識した活動の中で、学習の基礎的となる話すこ

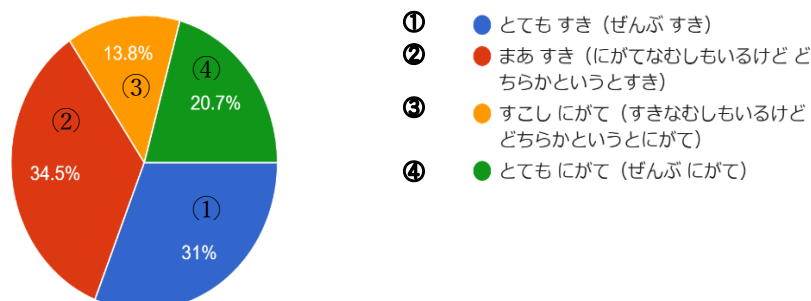
とや書くこと、話し合うこと、観察すること、色をぬることなど身につけてきたことを取り入れながら、本単元の学習に取り組めるようにする。

また、学習したことを振り返る活動を通して、個々の成長に気付かせ、自分ができるようになったことなどから、自信をもって普段の生活に生かせるようにしていきたい。

9月に実施した事前アンケートでは、51.7%の児童が昆虫を苦手だと感じている一方で、47.3%の児童が昆虫が好きだと回答した。苦手な児童も、友達と虫を追いかけたり、捕まえた虫を観察したりする中で、関心を示す様子が見られる。昆虫が好きな児童は、積極的に虫取りや世話をし、飼育方法のアイデアを出すなど、意欲的に学習に取り組んでいる。学級全体が仲良く、どのようなグループでも楽しく活動できるという良好な関係も、本単元の学習を支える大きな力となると考える。

この学習を通して、児童一人ひとりが、昆虫との関わり方を見つけられるようになることを目指す。昆虫が好きな子と苦手な子が互いに影響し合い、興味・関心をさらに深めることで、小さな命も大切にする気持ちを育んでいきたいと考える。また、学習を振り返る活動を通して、自分の成長に気づき、自信をもって日常生活に活かせるようになることを目指したい。

むしは すきですか？
29 件の回答



(3) 教材について (教材観)

5月に生活科見学ということで相原中央公園へ出かけた。公園内を歩くだけでなく、春に見られる動植物を見たり、触ったりした。動植物を持ち帰ることはしなかったが、芝生の広場にはたくさんの昆虫類を見つけることができた。次に、7月に再び相原中央公園へ出かけ、夏の草花で遊ぶ活動をした。その際に、夏の動物も見つけることができた。公園で教師から「昆虫はここで生きているから、もし持ち帰るならどうすればいいか考えよう。」と発問したところ、「餌とか住む環境を整えて育てる。」という意見や「自分は飼う自信がないから、逃がす。」という意見も出され、それぞれの判断で、自宅に持ち帰ったり、逃がしたりしている。児童のこれまでの生活体験などから、昆虫の飼育について考えることができた。昆虫について個人として感じていたことを、話し合うことで昆虫について共通理解を図り、科学的な見方や捉え

方につなげることができた。

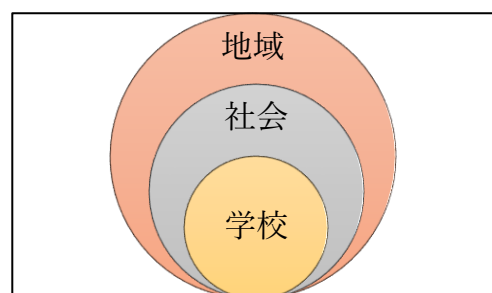
本単元では、みんなで昆虫を飼うことについて話し合う。昆虫などの動物が、どんな場所でこれまでの学校探検や栽培活動などを通して、身につけてきた「見る、きく、感じる力」を発揮して、昆虫について学んでほしい。

春と夏の生活科見学から、中央公園で虫探しをしたいという気持ちが高まっている。公共施設へ行くことにより、社会的なルールやマナーを学びつつ、思い切り楽しむ活動を通して、自分たちで考えた活動ができたことに達成感を感じさせたい。

5. 校内研究との関わり

(1) 低学年部会として研究テーマの捉え方

今年度の校内研究のテーマである「地域との関わりを通して共に学びあい高め合う児童の育成～地域の特色を生かした相っ子学習の充実～」を受けて、低学年では学校の自然や人、もの・ことに関わり、同心円状に児童の興味・関心、活動の範囲を広げていき、学習の対象や活動場所も広げていくことを通して、「生活経験と新しい知識や体験をつなげて、自分の考えをもち、互いの考えを比べあったり、認めあったりしてよりよい考えをもつ児童の姿」を目指す。



(2) 本単元における研究テーマとのかかわり

- 動物について、五感を通して感じ取ったり、比較したりして捉える姿。
- 植物や生き物、気温、風などの夏らしい自然の様子に気付いている姿。
- 動物を触ったり、見たり、聞いたりして実感することで、積極的に動物と触れ合って、動物の命を大切にしようとする姿。

(3) 研究テーマに迫るための具体的な手立て（1学年）

①指導計画の工夫

- ・相原の地域から人・自然・もの（こと）を学ぶ指導計画
- ・教科横断的に学びをデザインするカリキュラムマネジメント

②課題設定の焦点化

- ・児童が課題に気づき、学習計画や方法を決めていく学習の展開
- ・児童が学習したい内容を生かした課題設定

③振り返りの工夫

- ・学習カードや学びの記録を視覚化し、達成感を味わわせる。
- ・視覚化した学習の記録から、学びの流れを次の学習に生かす。

(4) 研究授業の視点

- ・地域の教材をあつかった学習を通して、これまでの生活経験と新しい知識や体験をつなげて、相っ子学習が展開されている。
- ・自分の考えをもち、互いの考えを比べあったり、認めあったりしてよりよい考えをもつ学習を通して、互いに認め合い高めあう学習が展開できている。

6. 指導計画・評価計画（11時間）

時間	小単元の目標 ①主な学習活動	重点評価規準 【評価の観点】	他教科との関連 資料 講師
4	<p>いきものと なかよし いきものを 見つけよう</p> <p>生き物について話したり、生き物を探したりする活動を通して、実際に生き物を探したり見つけたりすることができ、積極的に関わり、飼育したいと思うことができるようにする。</p> <p>① 幼児期の飼育経験や、生き物について知っていることを教えあう。（アンケート）</p> <p>② 校庭など身の回りで生き物を探したり、捕まえたりする。</p> <p>③ 生き物を観察したり調べたりして、生き物の様子や分かったことを共有する。</p> <p>④ 今後飼育していくか話し合い、他の場所で生き物がないか検討する。</p> <p>【常時活動】継続的に生き物の世話をする。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な場所で生き物を探したり見つけたりして、生き物に関わっている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物について、関心をもち、積極的に関わろうとしている。 	<p>「生活科」 学校探検（校庭） 春・夏の生活科見学 「国語」 すきなものつたえよう 「図画工作」 みんなのすきなもの 「道徳」 身近な自然に親しむ</p>
5	<p>いきものとなかよくなろう</p> <p>生き物の観察や世話を通して、特性を捉えることができ、生き物に生命があること、様々な生態があることに気づき、その特性や様子に応じて飼育環境や世話の仕方を見直そうとすることができるようにする。</p> <p>① どんな生き物がいるか予想したり、いそうな生き物について調べたりする。講師の先生に聞きたいことをあげておく。</p> <p>② 近くの公園で生き物を捕まえたり、観察したりする。講師の先生に聞きたいことを質問する。</p> <p>【常時活動】継続的に生き物の世話をする。</p> <p>③ 講師の先生からの返答を受け、生き物の様子や分かったことをまとめる。</p> <p>④ 生き物を観察したり調べたりして、生き物の様子や分かったことを伝え合う。調べていて分からないことをあげ、講師の先生に質問する。</p> <p>⑤ 今後飼育していくか話し合い、生き物の命を大切に活動について自分たちの考えをまとめる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き物には、生命があり、様々な生態があることに気付いている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き物を観察することについて、色や形、音、動き方などを意識しながら、生き物の特性を捉えている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き物の特性や様子に応じて、飼育環境や世話の仕方を見直そうとする。 	<p>「生活科」 春・夏の生活科見学 きれいなはなをさかせよう（アサガオの栽培） 「国語」 おおきくなったよ 図書室で本を読もう 「道徳」 動植物にやさしい心で接する</p>

2	<p>いきものと なかよく なれたかな</p> <p>生き物と触れ合い、繰り返し関わることで、適切に飼育することができたことに気付くとともに、生き物に心を寄せ、これからも生き物を大切にしようとするようにすることができるようにする。</p> <p>① 単元全体を振り返り、感じたことや考えたことなどを伝え合う。(アンケート)</p> <p>② これからやってみたいことを伝え合う。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き物と触れ合い、繰り返し関わることで、適切に飼育することができたことに気付くとともに、生き物に心を寄せ、これからも生き物を大切にしようとしている。 	<p>「道徳」</p> <p>生命を大切にする。</p>
---	--	---	-------------------------------------

6. 本時の学習活動

(1)目標

生き物の観察や世話を通して、その特性や様子に応じて飼育環境や世話の仕方を見直そうとすることができる。

(2)展開（9時間目/11時間）

	・学習活動	△予想される児童の反応	◇留意点・支援 ☆評価
導入	1 前時までを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 中央公園に探しにいった。 虫博士に教えてもらった。 虫について調べた。 虫を飼った。 	◇ 想起できるようにやっている様子の写真を用意する。

展開	2	めあてを確認する。	このあとむしをどうするかかんがえよう。	
	3	自分の考えを記入する。	△・かう →かわいいから。もっとみていたい。 つかまえたからさいごまでみたい。 ・にがす →しぜんにいたほうが いい。 もとのばしょにもどしたほうが しあわせだとおもう。 →まよっている かいたいけど、にがしたほうがいい かな。	<ul style="list-style-type: none"> 全体で意見を共有し、自分で考えを書く時に参考になるようにする。 選択項目に「まよっている」も入れ、迷っている子、考えるのが難しい子も安心して話し合いに参加できるようにする。
	4	グループになり、考えを出し合う。 ① グループで役割分担をする。 ② 意見を 出し合う。 ③ グループで 意見をまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 役割が分かるよう、札を用意して視覚的支援をする。 ◇ 役割ごとに台本を用意し、自分たちで進められるようにする。 ☆ 生き物の観察や世話を通して、その特性や様子に応じて飼育環境や世話の仕方を見直そうとすることができる。
	5	グループの意見を発表する。		【主体的に取り組む態度】
	6	本時を振り返る。		◇ 考えを発表できたか、役割を最後までできたか挙手で振り返る。
終末	7	次回の予定を話す。		◇ 意見が分かれたグループは、グループでお世話ができるのか、虫にとってどうするのがいいか、虫の様子や調べたことを踏まえ検討するよう促す。

(3)評価

グループ活動の様子・ワークシート・発言

(4) 板書計画

むしと なかよくなろう			発表者の名前 かう にがす ・ ・ ・ ・ ・	【プロジェクター】 はなしあいの てじゅん 1 じぶんのかんがえを かく 2 ぐるうぷのかんがえを きく 3 じぶんのかんがえを かく 4 はっぴょうする
むしさがし	しらべる	虫博士との交流		
め このあとむしをどうするかかんがえよう。				

成果と課題

【成果】

- ・ 親しみある場所で身近にいる生き物を捕まえたり、飼ったりする経験が子供たちの学習意欲につながるきっかけになった。
- ・ 選択式のワークシートや話し合いの型を使い、話し合い活動を行ったことで、子供たちが自分の考えをもち話し合い活動に参加することができた。

【課題】

- ・ 役割決めに時間がかかったグループや話し合いの型があっても難しいグループもあったため、全体で考えを出したり（その時に色で考えが分かるものを用意する、図に自分の考えの場所を示す、授業で出た考えをヒントとして掲示しておくとスムーズ）お互いの賛成できない考えについて意見を出したりしてから話し合いをしてもよかった。
- ・ グループでの話し合った後のまとめで、片方の考えに偏ったグループや考えが変わった子・変わらなかった子に理由を聞いて、考えを深める時間を確保できたらよかった。
- ・ 資料や作業（書く→役割決め・話し合い→書く→発表）が多かったため、精査する必要がある。
- ・